

## 「めざせ！食品ロス・ゼロ」川柳コンテスト 受賞作品概要

別紙

名前(都道府県名)	川柳作品	作品の説明（応募内容から転記）
<b>内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞</b>		
松田 克也（京都府）	日本から 世界に広がれ 「もったいない」	幼い頃、食べ残しをしようとすると、いつも母にこう言わされたものです。おかげで私は、食べ残しをすることなく、食事はいつも完食しています。この言葉が世界に広がれば、フードロスを減らせると思います。
<b>消費者庁長官賞</b>		
野尻 七望（富山県）	冷蔵庫 開けてびっくり これいつの？	ご飯を作ろうとして冷蔵庫を開けた時、いつ買ったか分からない食材や賞味期限・消費期限が切れそうな食材が入っていたことがあります。その時の驚きを表現しました。
<b>審査委員賞</b>		
岡本 梢（兵庫県）	物価高勿体ないの良いチャンス	食品ロスなどに興味が無かった人も財布に絡むと考えますからピンチはチャンスです。
小河 瞽太（京都府）	フードロス地球の悲鳴が聞こえるか	食品の生産による温室効果ガスの増加が地球の悲鳴を表してるように思えたので、川柳にしました。
寄能 望未（奈良県）	晩ごはん 消費期限と 相談し	晩ごはんなどの献立を決めるときに、消費期限などを確認する様子を川柳にしました。
木下 千紘（愛知県）	牛乳が 順番抜かされ 泣いている	陳列順ではなく、賞味期限が後ろの方の牛乳を取るという行為は、エコではない。
佐藤 愛（東京都）	フードロス いずれ地球も 期限切れ	廃棄される食品が増え続けいつか必ず地球の環境に悪影響を及ぼし地球自体の環境を悪くさせる。地球にも期限がきっとあると思った率直な気持ちを川柳にしました。